

## RL78ファミリ、78K0Rおよび78K0用 統合開発環境 CubeSuite+ ご使用上のお願い

RL78ファミリ、78K0Rおよび78K0用CubeSuite+の使用上の注意事項を連絡します。

- データフラッシュメモリ書き換えに関する注意事項 (対象: RL78ファミリ)
- ステップオーバーに関する注意事項 (対象: RL78ファミリ、78K0Rおよび78K0)

### 1. データフラッシュメモリ書き換えに関する注意事項

#### 1.1 該当製品

- RL78、78Kファミリ用Cコンパイラパッケージ (統合開発環境つき)
- 無償評価版CubeSuite+

上記のうち、CubeSuite+ 共通部分 V1.00.00 ~ V2.01.00である製品をE1およびE20と組み合わせて使用する場合。

バージョンの確認方法は、以下のURLからご参照ください。  
[https://www.renesas.com/cs+\\_ver](https://www.renesas.com/cs+_ver)

#### 1.2 該当マイコン

RL78/G10を除くRL78ファミリ

#### 1.3 内容

ブレーク中にデータフラッシュメモリをメモリパネルまたはウォッチパネルで書き換えると、CubeSuite+が正常に動作しない場合があります。

#### 1.4 発生条件

以下の条件をすべて満たす場合に発生します。

- (1) プロパティパネルの「接続用設定」タブの「モニタ・クロック」を「ユーザ」に設定している。
- (2) フラッシュメモリの書き換えができないクロック周波数に設定している。

(3) ブレーク中である。

## 1.5 回避策

ブレーク中にデータフラッシュメモリを書き換えたい場合は、プロパティパネルの「接続用設定」タブの「モニタ・クロック」を「システム」に設定してください。

## 1.6 恒久対策

改修を検討中です。

## 2. ステップオーバーに関する注意事項

### 2.1 該当製品

- RL78、78Kファミリ用Cコンパイラパッケージ (統合開発環境つき)
- 無償評価版CubeSuite+

上記のうち、CubeSuite+ 共通部分 V2.01.00である製品をIECUBE、MINICUBE2、シミュレータ、E1およびE20と組み合わせて使用する場合。(注)

注: 使用可能なデバッグツールはマイコンにより異なります。

バージョンの確認方法は、以下のURLからご参照ください。  
[https://www.renesas.com/cs+\\_ver](https://www.renesas.com/cs+_ver)

### 2.2 該当マイコン

RL78ファミリ、78K0Rおよび78K0

### 2.3 内容

エディタパネル上で関数の呼び出し位置からステップオーバーする際、ステップオーバーではなく、ステップインの動作となる場合があります。

### 2.4 発生条件

関数の呼び出し位置と呼び出し先の組み合わせが、以下のいずれかの場合に発生します。

(1) 呼び出し位置: C言語ソースコードの関数

呼び出し先 : アセンブラソースコードで作成された、デバッグ情報がある関数 (注1)

(2) 呼び出し位置: アセンブラソースコードのCALL命令

呼び出し先 : アセンブラソースコードで作成された、デバッグ情報がある関数 (注1)

(3) 呼び出し位置: アセンブラソースコードのCALL命令

呼び出し先 : C言語ソースコードまたはアセンブラソースコードで作成された、デバッグ情報がない関数 (注2)

注1: リアルタイムOS RI78V4のサービスコールを含みます。

注2: フラッシュセルフプログラミング用のライブラリ関数を含みます。

## 2.5 回避策

以下のいずれかの方法で回避してください。

- (1) 該当する呼び出し処理をエディタパネルからステップオーバーする前に逆アSEMBルパネルに切り替えてステップオーバーしてください。
- (2) 該当する呼び出し処理をエディタパネルからステップオーバーする前にエディタパネル上で、戻り先のソース行を右クリックして「ここまで実行」を選択してください。

## 2.6 恒久対策

CubeSuite+ V2.02.00 (2014年3月24日リリース予定) で改修予定です。

---

### [免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。